

道の駅におけるベビーコーナーの整備効果について

中国地方整備局 鳥取河川国道事務所 特別会員 ○濱永 貴史
三好 健夫
八幡 澄夫

1. はじめに

少子高齢化を迎えている現代社会において、子育て世代を応援する施策を推進していくことは非常に重要である。そのために、高速道路のサービスエリアや「道の駅」等の施設において子育て応援施設を速やかに整備する必要がある。

これらの施設において要求される子育て応援の基本的な機能は、①24時間利用可能なベビーコーナーの設置、②妊婦向け屋根付き優先駐車スペースの確保、③おむつのばら売り、④施設情報の提供の4つである。このうち、国が整備した「道の駅」における24時間利用可能なベビーコーナーの整備率は約1割に留まっている。

このため、平成30年9月に国土交通省から「サービスエリアと道の駅における子育て応援の取組方針」が示され、4つの基本的な機能について、高速道路のサービスエリアと国が整備した「道の駅」において概ね3年以内に全ての箇所の整備を完了することの方針が示された。

2. ベビーコーナー整備の経緯

国土交通省鳥取河川国道事務所管内には、現在5箇所「道の駅」があり、そのうちの2箇所については既に個室の授乳室が設置済みである。一方、残りの3箇所の道の駅では、授乳室の整備が待たれており、その中で比較的用户の多い道の駅「きなんせ岩美」へ授乳室を設置することとした。図1に道の駅「きなんせ岩美」の位置図、写真1に道の駅「きなんせ岩美」の外観を示す。



図1 道の駅「きなんせ岩美」位置図



写真1 道の駅「きなんせ岩美」外観

道の駅「きなんせ岩美」のように既設の「道の駅」での授乳室の整備は、リニューアル等の予定がない場合、利用空間や設備の確保、安全・衛生、施設構造上の制約により難しい状況である。特に授乳室は、プライバシーに配慮が必要で、かつ快適性も求められる。

道の駅「きなんせ岩美」は、道路情報提供コーナーと地域振興施設の給湯設備のある交流・研修室が可動式の間仕切りで分けられ、営業時間外は間仕切

キーワード 道の駅、子育て支援、社会実証実験

連絡先 〒680-0803 鳥取県鳥取市田園町4丁目400番地

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所 道路管理第二課

TEL 0857-29-1927

りで分けられ、営業時間中は間仕切りが収納されて2部屋が1空間として利用されている。道路施設である道路情報提供コーナー単独ではベビーコーナーの確保が難しいことから、岩美町の協力を得て、交流・研修室内へスペース確保を試みた。その手法として、建物の改築を必要とせず、手間・コストがかからず社会のニーズにあった授乳室を用いることを考えた。その結果、省スペースの個室であり、建築物としての届出を不要とし、低コストかつ早期設置を可能とする設置型授乳室を試行的に導入することとした。図2に設置型授乳室の配置図を示す。

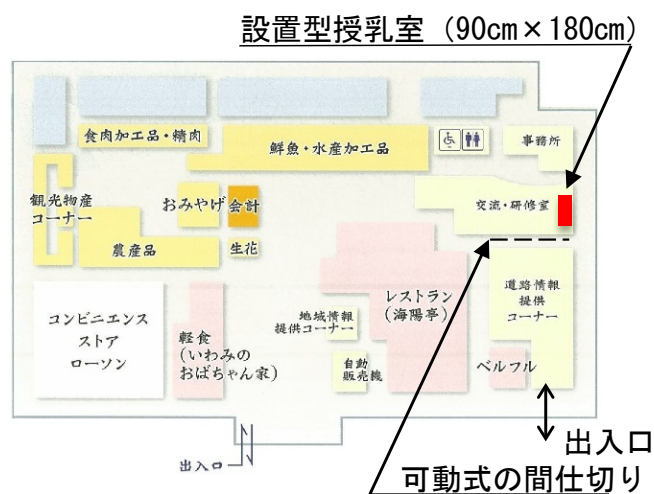


図2 設置型授乳室の配置図

3. 設置型授乳室の特徴

(1) どこでも手軽に設置

180cmの幅と90cmの奥行、200cmの高さがあれば設置可能となっている。キャスター付きの可動式であるため、設置位置の変更にも柔軟に対応できる。

(2) 完全個室なプライベート空間

一部屋に大人数で押し込められる授乳室より快適である。鍵のかけられる”個室の授乳室”で快適にベビーケアを行うことができる。完全個室のため、男性も利用可能。

(3) 明るさにも優しさ

照明器具は発熱のすくないLED&ソフト素材を使用している。優しい色合いのLED照明の外側はシリコン素材となっている。子供が触った場合も熱くも痛くもなく安心できる。

(4) 安心&安全

利用状況や不正利用を感知するセンサーが内蔵されており、プライバシーに配慮しながら、不正利用

を検知。万が一のときにはアラートメールで施設管理者に知らせることができる。

写真2に実際の設置型授乳室の外観を示す。この設置型授乳室は、ベビーケアが行える空間を提供する授乳室であり、西日本の「道の駅」では導入1例目である。また、従来の固定型の授乳室でないことから導入の必要性や効果の確認、有効性の確認を行うこととした。



写真2 設置型授乳室の外観

4. 調査方法

調査方法は、プライバシーを守りつつ、多くの方の意見を集めるため、アンケート調査を行った。道の駅「きなんせ岩美」を訪れた乳幼児連れ家族に対してアンケート調査を実施した。また、道の駅「きなんせ岩美」を訪れない家族についてもWEBアンケートを実施して多くの意見を集めた。さらに、授乳室内に設置されているセンサーの記録をもとに利用状況も調査した。

アンケートの内容は、①授乳室の利用状況、②授乳室利用時の人目について、③授乳室の設置位置、④授乳室の空間、⑤授乳室の設置台数、⑥希望サービス、⑦その他の自由意見の7つ設問で実施した。

5. 結果と考察

社会実証実験アンケートの回答は設置後87日間で71件であった。

(1) 利用状況

図 3-1 より、71 件のうち 27 組が施設を利用し、残りの内 17 組が施設の利用を希望している。このことから、授乳室には需要があることが分かる。

Q1 設置型授乳室は利用されましたか？

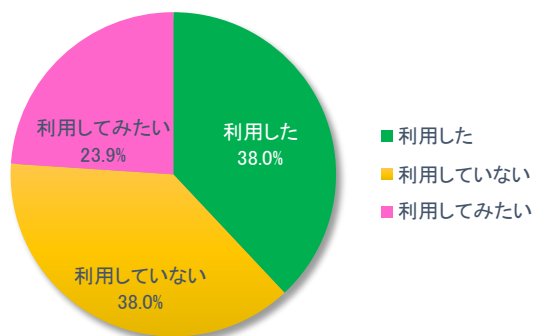


図3-1 授乳室の利用状況

さらに、授乳室内のセンサーから「きなんせ岩美」の営業日数 87 日のうち授乳室の稼働日は、39 日で稼働率 45%で 2 日に 1 日程度利用されている。延べ利用回数は 75 回で、稼働日における利用率は平均 1.9 回／日となる。平日と休日の利用状況内訳は、平日利用回数 26 回（35%）、休日利用回数 49 回（65%）であり、道の駅「きなんせ岩美」の特性上、買い物などの近隣住民の立ち寄りや遠方からの観光などの立ち寄り両方の利用が見込まれていると推測される。

図 3-2-1、図 3-2-2 に日毎の授乳室利用回数の推移を示す。初動は、話題性と年末年始が重なり利用回数が多く現れていると考えられる。また、調査期間を通して利用回数が均等に現れている。累計グラフが右肩上がりを示していることで、今後も利用が期待できる。

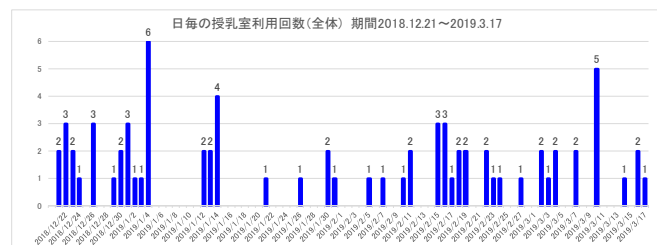


図 3-2-1 日毎の授乳室利用回数（全体）

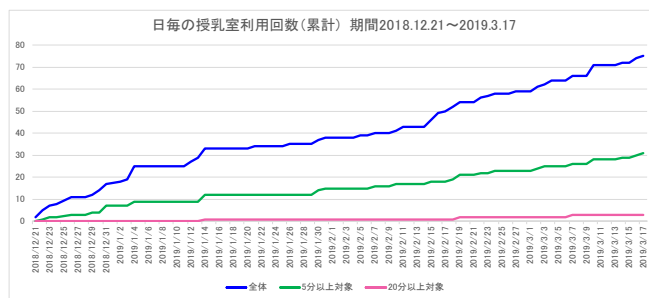


図 3-2-2 日毎の授乳室利用回数（累計）

(2) 利用しやすさ・快適さ

図 3-3 より、授乳室利用に際して人目が気になる方が 66.2%を占めており、利用環境は良好であると考えられる。図 3-4 より、気がつきやすい・探せば気がつく位置にあったと回答された方が過半数を占めているため、設置場所は認識しやすいことが分かる。しかし、図 3-3、図 3-4 から、授乳室が気がつく位置にあるため人目が気になる方もいると考えられる。そのため、人目が気にならないよう囲いを設ける等の対策が必要となる場合もある。図 3-5 より、室内の広さが十分と回答された方は 45.1%、やや窮屈と回答された方は 47.9%となり、半数は少し広めを好まれる。2 人以上の子連れの場合は室内が狭く感じられるのではないかと考えられる。

Q2 設置型授乳室の利用は人目が気になりますか？

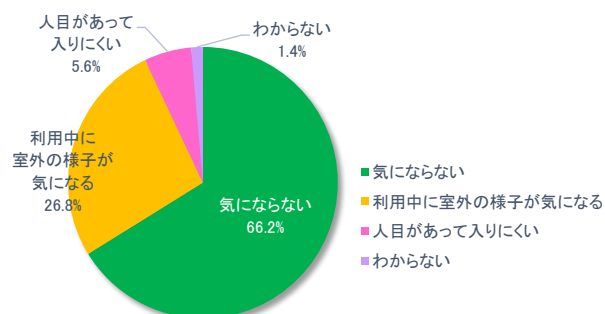


図 3-3 授乳室の利用環境

Q3 設置型授乳室の設置位置についてどう思いますか？

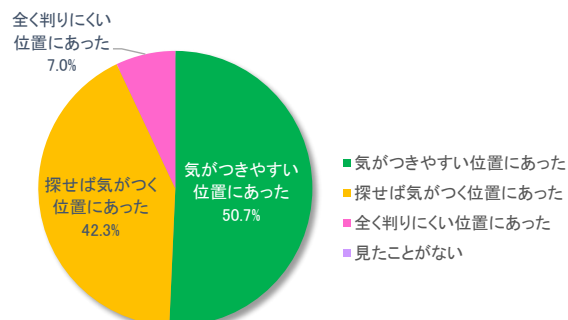


図 3-4 授乳室の設置位置

Q4 設置型授乳室の空間についてどう思いますか？
(奥行き90cm×幅180cm×高さ200cm)

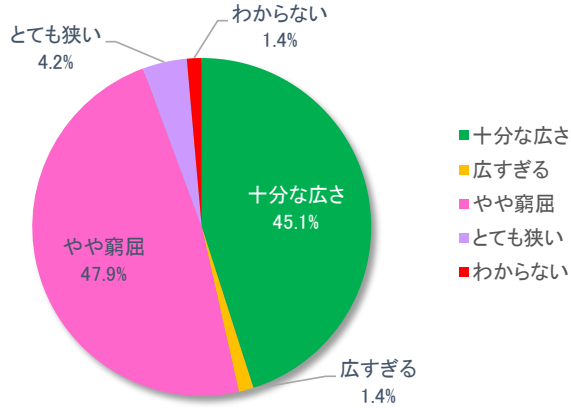


図 3-5 授乳室の空間

これらの結果から、設置型授乳室本体の利用しやすさ・快適さは十分に確保されていると考えられる。

(3) 授乳室以外のサービス

図 3-6 より、道の駅に求められるサービスは、子供用トイレ・幼児のプレイスペースがそれぞれ5割、おむつのばら売り・ベビーカーの無料貸出し・屋根付き優先駐車スペースの追加などがそれぞれ3割程度ある。授乳室の整備とこれらのサービスを合わせることで、子育て世代を応援することに繋がるのではないかと考えられる。

Q6 道の駅に希望するサービスがあれば教えてください
(複数選択可)

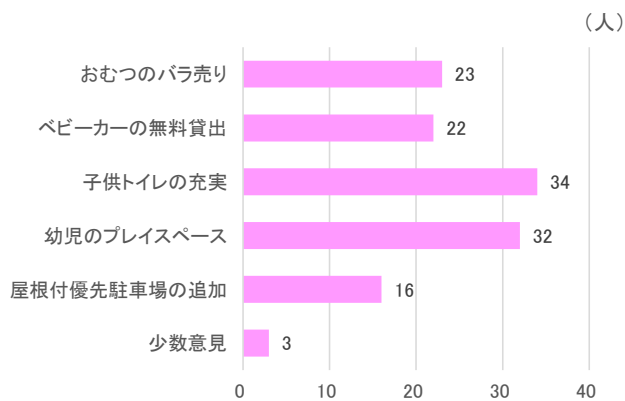


図 3-6 道の駅に希望するサービス

自由意見については、好意的なものが多く、批判的なものはみられなかった。

6. 課題

授乳室内にはモニターを利用した広告機能があるのだが、この広告機能については、道路管理者が道

路施設として設置するに際しての制約となり、設置が地域振興施設に限られる可能性がある。24 時間利用を可能とするため、安心して利用できる防犯対策などについても検討していかなければならない。利用時間のルール作成も必要となる。さらに、親 1 人に子供を 2 人以上抱えての授乳は難しく、授乳室に 3 人以上入りきらないので、安心して子供を預けられるプレイスペースの併設は必要である。しかし、授乳室は室外が監視できないためモニターで外の様子を確認できる等の改善が望まれる。また、給湯設備・おむつ用ゴミ箱がないなど設置型授乳室単体だけでは設備が不十分な部分も見受けられる。

このように、本格的な導入に向け、引き続き検討すべき課題がある。

7. まとめ

多くの意見が寄せられ、短期間の社会実証実験とはいえ、必要性や効果の確認、有効性が確認できた。改善すべき課題もあるが、自由意見では授乳室を利用するために「道の駅」へ立ち寄ったという意見もあり今後も利用が期待できるであろう。

設置型授乳室単体では不十分な部分もあるが、給湯設備やプレイスペースのある場所に設置することで設置型授乳室は固定型の授乳室の代わりを十分なしている。

ベビーコーナーの整備が困難な道の駅においては、設置型授乳室を用いることも 1 つの方法であると思う。